

総体に出て

鳥取市立北中学校 二年 西土井 未希

「パーン！」

矢が的に当たると、雨が上がりサアツと陽がさしてきた時のような、さわやかな気分になります。私はこの瞬間が大好きです。

イライラしている時こそ、的をじっとにらみ、狙いを定め、「一、二……」と心の中で五秒数えます。心の中が真っ白になった時、

「今だ！」と矢を放つのです。一生懸命練習したかいがあり、総体にでられることが決まりました。個人戦では、二年生は私一人だったので、私で本当に大丈夫かと心配になりました。でも、不安をなくすには練習しかありません。いつもより集中して日々、練習を重ねました。

あつという間に当日がやってきました。会場に沢山保護者の方達が来ておられました。静かで、空気がぴんと張りつめています。

射場に足をふみ入れた瞬間、足がふるえ、心拍数が上がっていくのを感じました。

一立目が始まりました。いつもより「かい」が早くなつてしまい、一本も当たることができませんでした。

落ちこみながら射場を出ると、友達が待っていました。

「絶対当てるよ！」

友達が私の緊張をほぐすためか、笑顔でわざと乱暴に声をかけてくれました。私もつられて笑ってしまい、スーッと肩の力が抜けていきました。私はどうすれば元気になるかわかってくれる友達の存在が、大きな力になりました。

「よし！」

心の中で叫び、無心になって二立目をうちました。

「パーン！」

当たった音と一緒に、大きな拍手が聞こえてきました。それから二本、三本目も当たることができました。

三本当てて控え室に入ると、緊張がとけて涙がポロポロと出てきました。皆のもとに行くと、先輩方や友達、先生が私以上に喜んでくれていました。顧問の先生が、

「西土井さん良かったよ！チームに勢いがつく！」

と言って下さいました。足を引っ張ってはいけないという事ばかり考えていたので、私でも役に立つ事ができたんだと、ホッとしました。

六位決定戦に出ることが決まりました。この調子で…と思いました。が、集中が切れてしまったのか、惜しくも七位という結果になりました。

残念でしたが、精一杯力を出すと、悔いが残らないということや、友達や先生の一言がとても力になり、言葉が本当に大切なものだという事がわかり、とても良い経験になりました。

先輩方も残念ながら惜しくも決勝戦に行くことが出来ず、全国大会出場の夢は破れてしまいました。

全国大会への道は、かなり険しいものだと思います。しかしつらい時こそ私を励ましてくれた先輩や友達を思い出し、今度は私が皆を励ます言葉をかけられる人になりたいと思います。

私の今の目標は、大切なことを教えてくれた皆で、全国大会で団体入賞することです。

新しい夢に向かって、前を向いて一日一日、しっかりと歩んでいきたいと思えます。